

地域と連携・協働した防災教育の取組

—中学生が主体となった3K（気付き・考え・行動）の実践を通して—

呉市立片山中学校
教諭 奥村 健吾

1 はじめに

本校は、広島県呉市の中心部に位置し、東片山町の高台に、昭和23年4月に建設されて以来今日まで数々の歴史を経て、伝統と誇りを継承し、新たなよき伝統を築き上げるべく生徒一人一人の健全育成に向けて、教職員、地域、保護者が心を一つに全力で取り組んでいる。

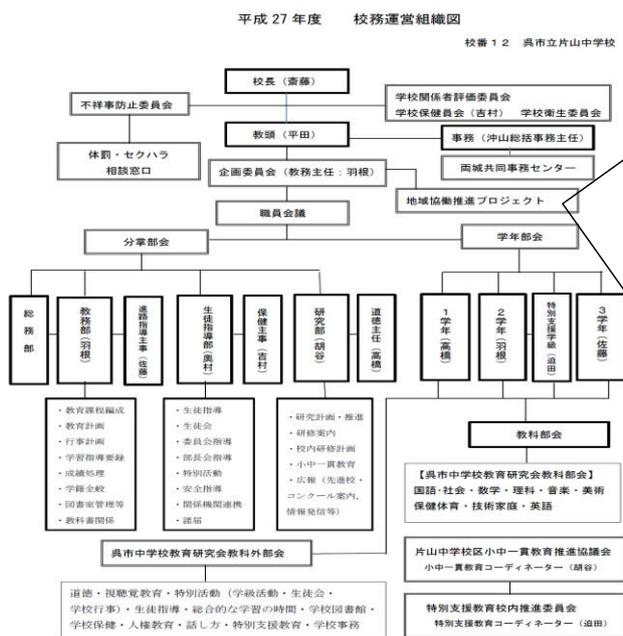
本校の学校教育目標は、「～凜として～『友愛・挑戦・克己』自主自律の精神を尊び社会に貢献できるたくましい生徒の育成」を掲げ、生徒・保護者・地域との協働を柱に、絆を深め、安心・安全な環境で学べる学校づくりに全教育活動を通して取組を進めている。

防災教育については、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、各教科等において系統的・横断的に、3年間を通して、学校教育のあらゆる教育活動の場面で計画的・組織的に取り組んでいる。また、地域と一体となつての「地域総合防災訓練」は、平成23年度から「自分の命を守る」というスローガンを掲げ、幼稚園・小学校・中学校、また消防署や地域のまちづくり委員会などと協働して毎年実施しており、防災における実践的行動力を身に付けている。

2 地域と連携した防災教育の推進

(1) 防災教育の推進体制

防災教育の推進は、教務部・生徒指導部・研究部という校務分掌に合わせて、「地域協働プロジェクト」というプロジェクトチームを組織し、校務運営組織に位置付けている。そのプロジェクト内にさらに「地域貢献活動推進チーム」「防災教育推進チーム」という2つのチームを組織し、学年や分掌を踏まえて構成されたメンバーで取組を進めている。



片山中学校区 地域貢献協働プロジェクト

PROJECT K (Katayama Kyodo Project)

地域貢献活動推進チーム

校長・教諭・主任・教務・研究・生徒指導

- ◆校区内の様々な団体からのニーズを推進委員会で集約しながら、生徒が笑顔で地域と共に活動し、笑顔で地域に貢献していく活動を推進していく。
- ◆この活動を通して、地域社会との関わりつながりをもつ。児童生徒に郷土への愛情や社会奉仕の精神を育むとともに、自分たちが所属する地域社会への所属感や貢献意識の向上をはかる。

【活動内容】

清掃活動 草取り 行事への参加 イベントの手伝い
施設利用者・園児との交流 (楽器演奏・演舞・手品・紙芝居etc)

【道徳教育の視点】

1-(3)自主・自律 2-(2)人間愛・他者への思いやり
4-(2)公徳心 4-(5)社会奉仕 4-(7)郷土愛

【推進委員会構成メンバー】

片山中学校・片山中学校生徒会・片山中学校PTA
各地区社会福祉協議会・自治会連合会・女性会
がしの木片山・ほほえみ呉中央・おひま
至心幼稚園・いほう幼稚園・徳の館保育園
スカトラランドのまひ幼稚園・呉警察署

全体活動日 ①7月7日(木) ②12月2日(木)

防災教育推進チーム

校長・教諭・生徒指導主事・教務・研究・生徒指導

- ◆火災や地震や土砂災害などが発生したときに、自他の生命をまもることが出来るように、地域社会と学校が一体となって総合防災訓練を実施する。
- ◆総合訓練を通して、地域社会との関わりつながりをもつ。児童生徒に自然への畏敬の念と自他の生命を尊重する心を育むとともに、防災に対する意識の向上を図る。

【訓練内容】

避難訓練 初期消火訓練 ロープ結索訓練 避難所運営訓練
給食・給水訓練 防災リーダー養成講座への参加

【道徳教育の視点】

1-(3)自主・自律 2-(2)人間愛・他者への思いやり
3-(1)生命尊重 3-(3)畏敬の念 4-(7)郷土愛

【推進委員会構成メンバー】

片山中学校・片山中学校生徒会
片山小学校・6地区社会福祉協議会・自治会連合会・女性会
がしの木片山・至心幼稚園・藤三(片山店)
東中央支店・呉消防署・消防分団
呉市地域協働協議会

第4回片山中学校区総合防災訓練 11月27日(金)

(2) 全校生徒による備蓄食品の常置

本校では、地域の避難所であることを踏まえて、総合的な学習の時間の教材として、また緊急時の備えとして、中学校入学時に生徒一人当たり 1,000 円の備蓄食品を生徒・教職員全員が購入している。このことは、県内において先進的な取組として評価していただいている。

(3) 片山中学校区地域総合防災訓練

毎年 11 月の最終金曜日に、中学校区内の幼稚園・小学校・中学校・障害者福祉施設・まちづくり委員会・社会福祉協議会・女性会・敬老会・消防署などの団体と一体となり、総勢約 800 名による総合防災訓練を実施している。参加団体の代表者で総合防災訓練推進委員会を組織し、当日の訓練内容を協議・検討し準備を進め、当日を迎えている。訓練内容としては「煙中歩行訓練」や「初期消火訓練」を中学生と幼稚園児のペアで実施したり、消防署職員や呉市危機管理室職員の指導の下「避難所運営シミュレーション訓練」「避難所設営訓練」を実施したり、学校だけではできない実践的な活動を取り入れながら、様々な訓練を体験させている。さらに、地域の女性会・老人会・社会福祉協議会の方が昼食の炊き出しを実施し、参加者全員で食事をするなど、地域の方々との温かい感情交流を育み、絆を深めることにも大きく貢献している。



片山中学校の防災教育

3 3年間を見通した系統的な防災教育

(1) 第1学年～地域を知る～

1 学年は「地域を知る」をテーマとし、呉市役所・危機管理室から講師を招聘し、「防災マップ」作成について学んでいる。校区の防災マップの作成を通して、地域内の急傾斜地などの危険箇所を調べるフィールドワークを行っている。また、これらの学習活動について生徒一人一人がまとめた「防災新聞(冊子)」を地域に配布している。



月	学習内容	領域	生徒会	1年	2年	3年	PTA	地域
6月	全校道徳	道徳の時間	○	○	○	○	○	
6月	呉市防災リーダー養成講座	生徒会活動	○					○
8月	防災マップづくり	総合的な学習		○			○	○
8月	危険箇所フィールドワーク	総合的な学習		○			○	○
8月	防災新聞づくり	総合的な学習		○				○
9月	防災講演会	総合的な学習	○	○	○	○	○	○
10月	取組のまとめと発表	学校行事 (文化発表会)		○			○	○
11月	防災新聞地域配布	総合的な学習		○				○
11月	防災訓練事前学習 (避難所開設シミュレーション)	総合的な学習				○		
11月	総合防災訓練	学校行事 (避難訓練) 総合的な学習	○	○	○	○	○	○
1月	修学旅行事前学習 (災害を知る)	総合的な学習			○			
2月	人と未来 防災センター	学校行事 (修学旅行) 総合的な学習			○			

(2) 第2学年～災害を知る～

2 学年は「災害を知る」をテーマとし、「芸予地震」「阪神淡路大震災」「東日本大震災」など、さま

ざまな災害の実相について調べ学習を実施している。特に、修学旅行の事前学習としての「阪神淡路大震災」については特別活動、総合的な学習の時間、道徳の時間などで学習を積み上げ、修学旅行で訪れる「人と未来防災センター」でさらに学習を深化させている。

(3) 第3学年～自ら行動する～

3学年は「自ら行動する」をテーマとし、生徒会から代表生徒が呉市防災リーダー養成講座に参加しながら、実際に災害に遭遇した場合、自他の命を守るために自分たちがどう行動していかなければならないかを考え、文化発表会や生徒朝会を通して全校生徒へ発信するなど、主体的な学習活動を展開している。また、防災訓練の中では、避難所の運営や設営に関する訓練を実施することで、避難所になっている本校に通う中学生として、災害等に適切に対応する能力の基礎を培い、的確な思考・判断に基づく行動選択ができる力を育成している。



4 防災教育の更なる深化をめざして～平成27年度の取組～

(1) 呉市中学校生徒会交流会への発信～生徒会執行部の取組

広島県は急傾斜危険地域が非常に多く、特に呉市は県全体の1割に当たる危険箇所がある。全市的な防災に係る安全教育の充実が急務となっていることを踏まえ、今年度は呉市全体で、生徒会が主体的に取り組む防災学習に取り組んでおり、その中心として、本校の生徒会執行部が大きな役割を担い活躍している。



私たちが今成すべきことは何か、また私たちにできることは何かを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。呉市は急傾斜地が多く、土砂災害の危険が高い地域として知られています。また、海に面した地域では、津波や高潮などの危険もあります。自然の脅威にいつ遭遇してしまうか分かりません。そんな呉の町で暮らしている私たち、そんな呉の町にある中学校の生徒会執行部として、私たちにできる事、私たちがすべき事を考えていきましょう。そこで、私たちからグループ討議の柱を2つ提示したいと思います。

- ① 日頃から、地域の皆さんとのつながりをもつために、大切にしなければならないことは何か。
- ② 全校生徒に対して、命の大切さ、命を守る意識をどのように伝え、私たち生徒会執行部が実践できる力を身に付けるか。

具体的には、本校の生徒会執行部が、本校で取り組んでいる防災学習についてまとめ、その内容を、8月上旬に呉市内26中学校の生徒会執行部が集まる生徒会交流会の場で紹介するとともに、本校の生徒会長が次のような問題提起をした。

また、最後のまとめとして次のように発表している。

今回の発表を振り返って、私たちが皆さんに1番伝えたいこと、それは、私たちができる防災とは、「気付き・考え・行動する」ということです。この3つのキーワードをまとめて私たちは「3K」と呼んでいます。私たち生徒会執行部が全校生徒のリーダーとして、災害の知識を深めると同時に、「3K」について1人1人が考えを持ち行動しなければなりません。今日考えたことを学校に持ち帰り、先生方と一緒に具体的にできる防災の取組を実践していきましょう。

自分たちが学んだことを呉市全体に広げ、さらにそこで他の中学校の生徒と意見を交流し学習を深め、より主体的・能動的な防災安全教育の推進に向けての第一歩を踏み出していった。

また、鳥取県教育委員会が防災教育の視察で訪問された際も生徒会執行部が本校の取組についてのプレゼンテーションを行い、中学生の防災に対する高い意識と主体的な活動に高い評価をいただいた。



(2) 片山中学校防災アカデミー～11月を防災月間と位置付けて～

今年で4回目を迎えた片山中学校区地域総合防災訓練は、年ごとにテーマを広げ、訓練内容に改良を加えるなど内容の充実を図ってきた。しかし、昨年度の反省として、防災訓練がその日のみのイベントとなってしまう、生徒たちの意識の深まりという点では、まだ弱いのではないかという課題が出された。この課題の克服に向けて、3年間の系統的な指導を整理すると共に、11月を本校の防災月間とし、「片山中学校防災アカデミー」と銘打った取組を構築した。内容としては、道徳の時間、教科学習、特別活動、総合的な学習の時間そして学校行事、生徒会活動など、すべての教育活動を有機的に結びつけ、11月末の総合防災訓練をそれらの学びの集大成の場に位置付けた。

5 成果と課題

成果として、3年間を見通した系統的な防災教育を地域の関係者・諸団体との協働で推進していく体制を構築することで、生徒がより主体的に防災について学ぶ教育内容を創造することができた。また、11月に実施した防災アカデミーによって、教科にも防災教育の枠を広げ、「『学びの変革』アクション・プラン」を意識した、生徒を基点とした能動的で深い学びを通して、学校教育目標にある「自主自律の精神を尊び社会に貢献できるたくましい生徒の育成」へとつなげていくことができた。

今後の課題として、これまでの実践を今後も継続し一般化していくために、各教科及び各領域における防災教育を年間指導計画の中に位置付けていくこと、また、それによって系統的な防災教育を更に充実させていくことである。

6 おわりに

本校の防災教育は、平成23年3月11日の東日本大震災を主なきっかけとして、呉市における平成11年の豪雨災害や平成12年の芸予地震などについて学習することからスタートし、地域の関係者、自治会など、多くの応援者の理解・協力・支援を受けながら、毎年、その取組の内容を改善し、スモールステップで積み重ねている。平成26年8月20日に広島市で土砂災害が生起した日は、本校の1年生は校区内の急傾斜危険箇所を調べて回るフィールドワークを実施していた。自分たちが取り組んでいる学習がもつ意味を実感し、本気で臨むフィールドワークとなった。

地域の方々の力をお借りしながら、毎年工夫を加えながら学校全体で取り組んできた本校の防災教育の実践は、今年度、文部科学大臣表彰をいただいた。これまでの取組に対するこの評価を、更なる防災教育の確かな実践へとつなげていこうと教職員一同決意を新たにすると共に、生徒たちが、より主体的かつ能動的に学び、自分たちで気づき、考え、行動できる力を習得し、身に付いた実践力が社会に貢献できる資質になることを願いながら、これからも丁寧に取組を進めていきたい。

また、本校の実践を呉市や広島県へと発信することで、広島県全体の防災教育の発展に積極的な役割を果たしていきたい。